

明日も元気で来いよ！

1月20日(土)は、大寒。1年で最も寒い季節がやって来ました。暦の通り、先週あたりは、たいへんな冷え込みでした。そんな中、子どもたちの登校を見守ってくださっている、見守り隊や旗当番の皆様、本当にありがとうございます。

さて、1月17日は、阪神大震災から23年。当日の朝、どのように過ごされたでしょうか。「明日も元気で来いよ20号」をもとに、子どもたちと、ほんの少しでも、震災について、日常の生活について話し合っていたら幸いです。よろしく願いいたします。

2年生の保護者の方から、1月17日、会社の朝会で「明日も…20号」を皆さんに紹介していただけるといふ、たいへんうれしいお知らせをいただきました。震災の様子や思いを語り継ぐのは、私たちの使命だと思っています。ありがとうございました。



敏感な心のアンテナを

19号でお知らせしたクイズ「ツバキとサザンカの花の散り方のちがい」について、校長室の前に左のような掲示をしました。正解した子どもには、このようなカードをプレゼントしています。

ツバキの花は、花全体がポトリと落ちます。それを「落椿(おちつばき)」といい、春の季語となっています。また、花の落ちる様から、首を切り落とすことを連想し、縁起の悪い花だといわれたこともあるそうです。

しかし、冷たく張りつめた空気の中、まるで、「ポトリ」と音が聞こえてきそ



うなくらい潔く落ちる花は、私たちに何かを考えさせます。そのため、寒椿を題材に多くの俳句があり、小説、歌などもあります。

ホームページでも紹介した通り、5年生のKくんが、ツバキとサザンカの実物を持ってきてくれました。その後、2年生のTさんも、サザンカの花を持ってきてくれました。このように、玄関掲示やそのクイズを契機にして、子どもたちが、季節の植物に目を向け、その移ろいを敏感に感じる心のアンテナをもってくれることが、たいへんうれしいです。

平成25年の19号で、私は、次のようなことを書きました。紹介します。

ふと見上げた空の青さ、道端に咲く名も知らない小さな花の美しさと健気さ、冷たい夜空に浮かぶ月の澄んだ明るさ…私たちの身のまわりには、心を動かされる事象がたくさんたくさんあります。自然の美しさ、不思議さ、力強さ…そんな事象に出あったときに、心を動かすことのできる心のアンテナを子どもの心にはりめぐらせたい。敏感な心のアンテナをもった子どもは、きっと、人の喜びや苦しさ、悲しさなどを思いやることができる。そう思っています。

これからも、西天満小学校の子どもたちが心の中に、敏感な心のアンテナを張りめぐらせてくれることを願っています。

校舎増築工事

基礎工事が終わり、いよいよ本格的に躯体の建設にはいりました。1階部分から、2階部分に入っています。鉄筋だけだと、それほど感じませんでしたが、木枠で囲まれて、



校舎の大きさを実感できるようになると、なかなかの圧迫感があります。これが、五階まで建ちあがると、かなりの迫力だと思います。もうすぐ校長室の窓を超える高さになります。

完成が楽しみです。

